

「研究データ利活用協議会」公開シンポジウム 参加者アンケート分析

研究データ利活用協議会事務局

2021年11月22日開催の「研究データ利活用協議会」公開シンポジウムにおいて、参加者にアンケートを実施したので、その結果を以下に報告する。

<回答者について>

- ・ 参加者 64 人（講演者等込み）に対して、回答者数 39 人で、回答率は約 61%であった。
- ・ アンケート回答者のほとんどを大学および公的機関所属者が占めていた。職種については研究者が 16 名と全体の半数弱を占めていた一方で、これまでのアンケートではあまり見られなかった職種として URA が 2 名参加していた。

表 1 アンケート回答者の所属

	2021 年度		【参考】 2020 年度	
	人数	割合	人数	割合
大学	16 人	41%	9 人	40%
民間企業	4 人	10%	1 人	5%
公的研究機関	12 人	31%	11 人	50%
公的機関	6 人	15%	1 人	5%
任意団体	1 人	3%	0 人	0%
合計	39 人	100%	22 人	100%

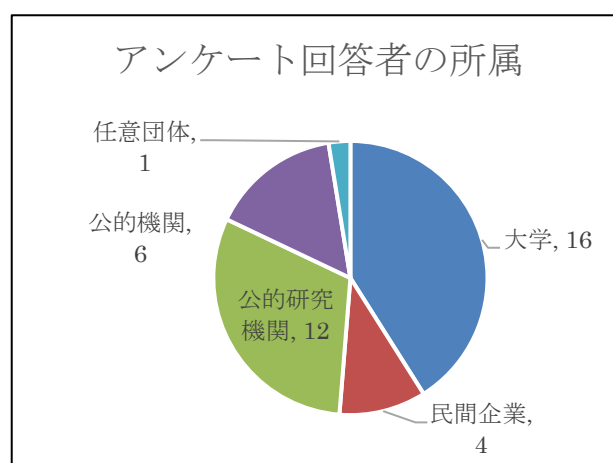
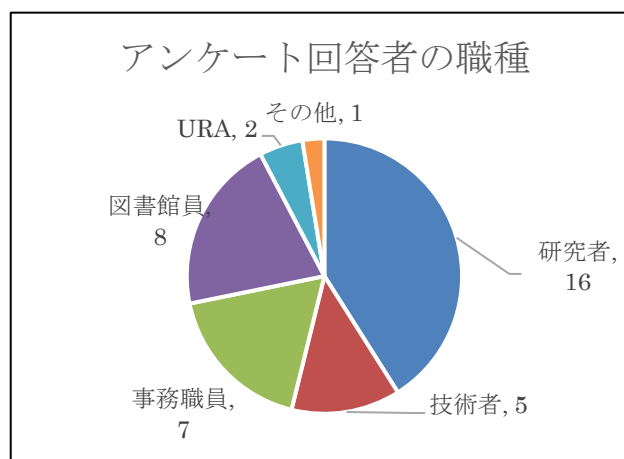


表 2 アンケート回答者の職種

	2021 年度		【参考】 2020 年度	
	人数	割合	人数	割合
研究者	16	41%	8 人	36%
技術者	5	13%	4 人	18%
事務職員	7	18%	1 人	4%
図書館員	8	21%	7 人	32%
URA	2	5%	0 人	0%
その他	1	3%	2 人	10%
合計	39	100%	22 人	100%

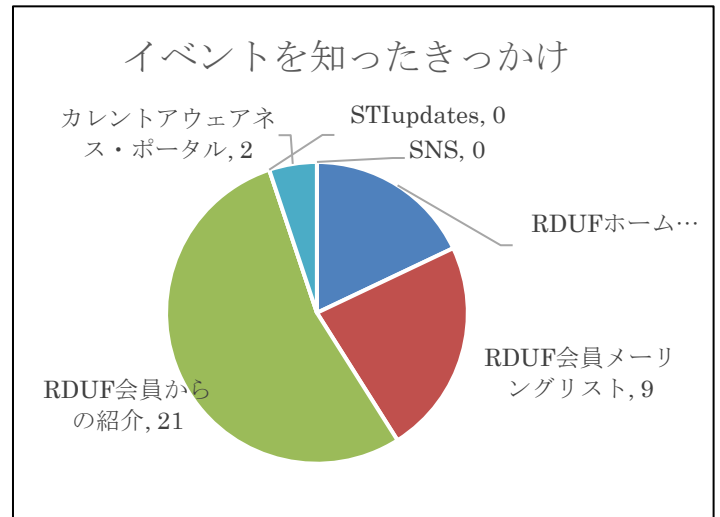


<広報の効果>

何を通じてイベントの開催情報を得たか尋ねた。結果は以下の通り。RDUF 会員からの紹介が半数以上を占めており、コミュニティーを通じた情報共有が積極的に行われていることがうかがえる。

表 3 参加者がイベントを知ったきっかけ

	2021 年度		【参考】 2020 年度	
	人数	割合	人数	割合
RDUF ホームページ	7 人	18%	5 人	23%
RDUF 会員メーリング リスト	9 人	23%	3 人	14%
RDUF 会員からの紹介	21 人	54%	11 人	50%
STIupdates	0 人	0%	0 人	0%
カレントアウェアネ ス・ポータル	2 人	5%	0 人	0%
SNS	0 人	0%	0 人	0%
合計	39 人	100%	19 人	100%

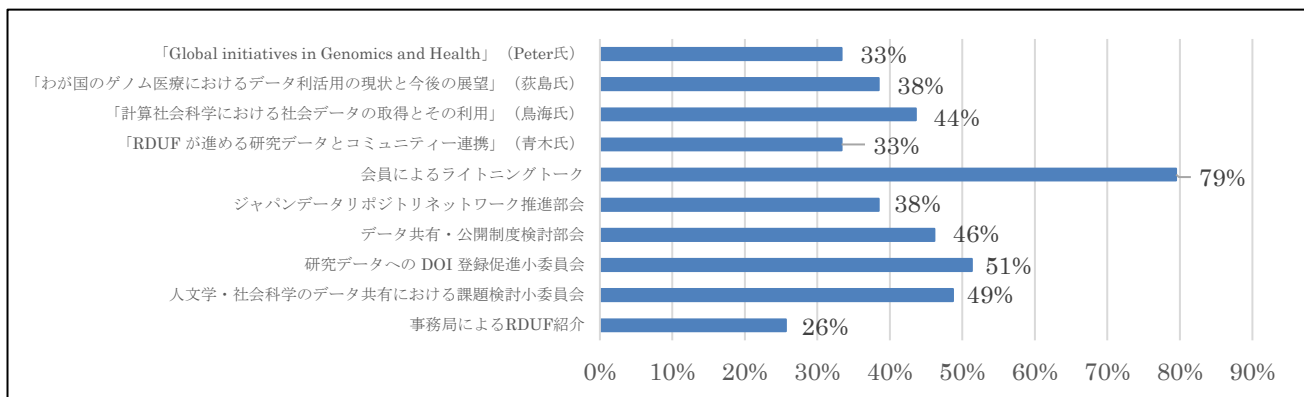


<イベントの評価>

- ・ 今回のイベントの各セッションについて、良かったものを複数回答可としたうえで訪ねた。結果は以下の通り。
- ・ 昨年度に総会限定で開催した会員によるライトニングトークについて、最も評判が良かった。RDUF 小委員会・部会による活動紹介や招待講演についても好評を博した。

表 4 公開シンポジウムにおいて良かったと思う内容（%は、全回答者数 39 人）

	2021 年度	
	人数	割合
事務局による RDUF 紹介	10 人	26%
人文学・社会科学のデータ共有における課題検討小委員会	19 人	49%
研究データへの DOI 登録促進小委員会	20 人	51%
データ共有・公開制度検討部会	18 人	46%
ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会	15 人	38%
会員によるライトニングトーク	31 人	79%
「RDUF が進める研究データとコミュニティ連携」(青木氏)	13 人	33%
「計算社会科学における社会データの取得とその利用」(鳥海氏)	17 人	44%
「わが国のゲノム医療におけるデータ利活用の現状と今後の展望」(荻島氏)	15 人	38%
「Global initiatives in Genomics and Health」(Peter 氏)	13 人	33%

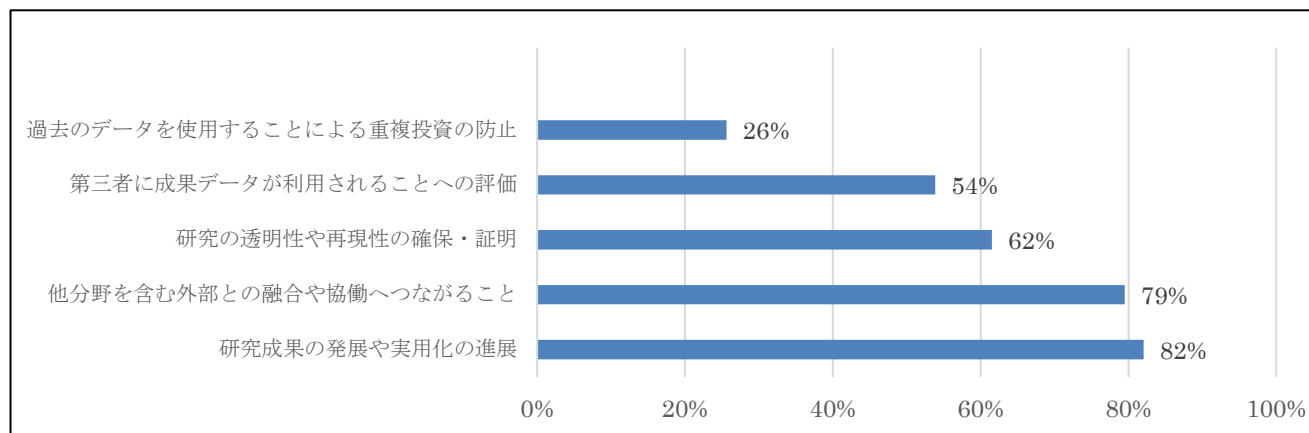


<研究データについて>

1. 研究データの公開にどのような効果を期待しているか、複数回答可で尋ねた。結果は以下の通り。

表 5 研究データ公開への期待（%は、全回答者数（2021 年度:39 人 2020 年度:22 人中の割合））

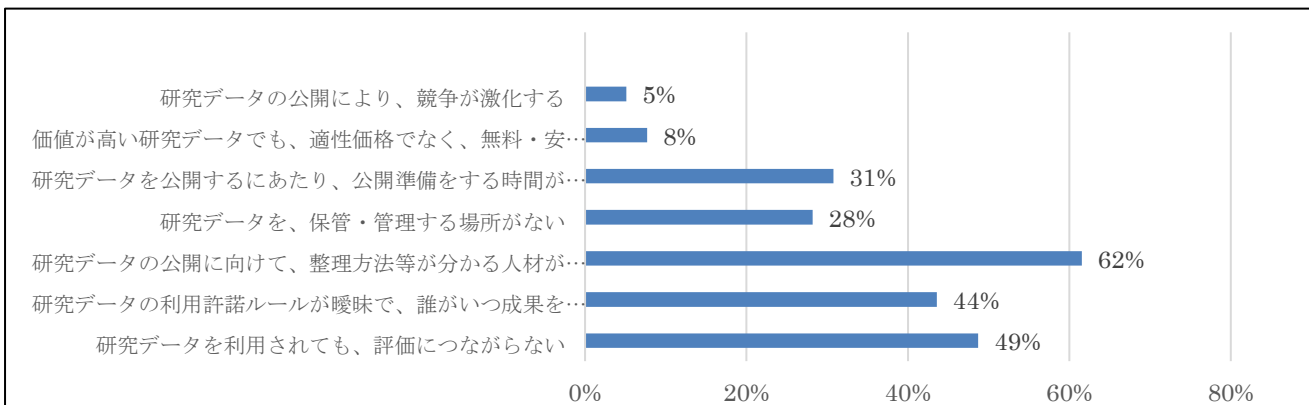
	2021 年度		【参考】2020 年度	
	件数	割合	件数	割合
研究成果の発展や実用化の進展	32 件	82%	17 件	77%
他分野を含む外部との融合や協働へつながること	31 件	79%	17 件	77%
研究の透明性や再現性の確保・証明	24 件	62%	12 件	55%
第三者に成果データが利用されることへの評価	21 件	54%	14 件	64%
過去のデータを使うことによる重複投資の防止	10 件	26%	8 件	36%



2. 研究データの公開に対して、どんな懸念を感じるかを複数回答可で尋ねた。結果は以下の通り。

表 6 研究データの公開への懸念点（%は、全回答者数（2021 年度:39 人 2020 年度:22 人中の割合））

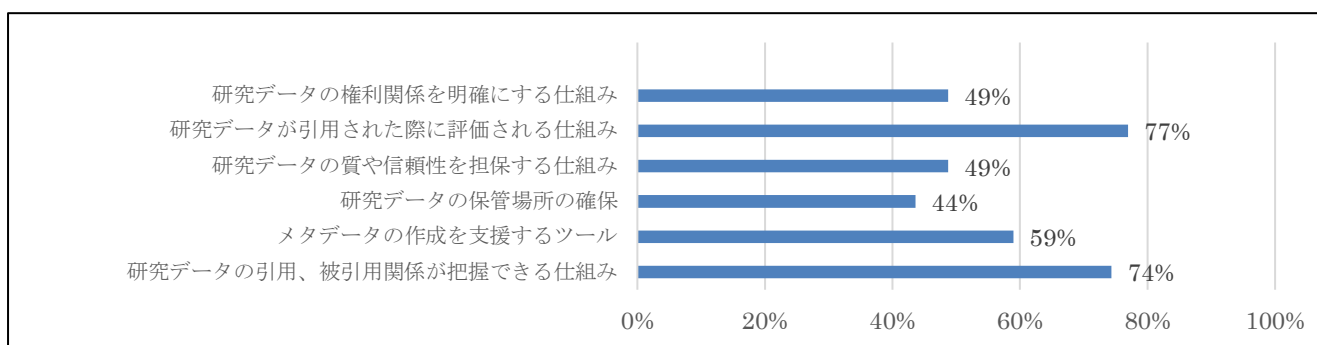
	2021 年度		【参考】2020 年度	
	人数	割合	人数	割合
研究データを利用されても、評価につながらない。	19 人	49%	11 人	50%
研究データの利用許諾ルールが曖昧で、誰がいつ成果を利用しているか不明である。	17 人	44%	13 人	59%
研究データの公開に向けて、整理方法等が分かる人材がいない。	24 人	62%	13 人	59%
研究データを、保管・管理する場所がない。	11 人	28%	7 人	32%
研究データを公開するにあたり、公開準備をする時間が無い。	12 人	31%	4 人	18%
価値が高い研究データでも、適正価格で無く無料・安価で公開されてしまう。	3 人	8%	2 人	9%
研究データの公開により、競争が激化する。	2 人	5%	1 人	5%



3. 研究データの引用を活性化するために、どのような取り組みが必要か尋ねた。結果は以下の通り。

表7 研究データの引用を活性化するための取り組み
(%は、全回答者数(2021年度:39人 2020年度:22人中の割合))

	2021 年度		【参考】2020 年度	
	人数	割合	人数	割合
研究データの引用、被引用関係が把握できる仕組み	29人	74%	15人	68%
メタデータの作成を支援するツール	23人	59%	9人	41%
研究データの保管場所の確保	17人	44%	9人	41%
研究データの質や信頼性を担保する仕組み	19人	49%	14人	64%
研究データが引用された際に評価される仕組み	30人	77%	13人	59%
研究データの権利関係を明確にする仕組み	19人	49%	10人	45%



<今後の「研究データ利活用協議会」>

- ・ 今後の開催形式について訪ねたところ、半数以上の参加者が次回もオンライン形式での開催を希望した。また、実開場のみでの開催を希望する者はいなかった。

表8 今後の開催形式についての回答

今後の開催形式について	回答者数	割合
今後もオンライン形式での開催を希望	23人	59%
実会場のみでの開催を希望	0人	0%
オンライン・実会場の両方での開催を希望	16人	41%
計	39人	100%

- ・ 今後、RDUFに取り上げてほしいテーマについて尋ねたところ、以下の回答があった。
 - データ活用者と、データ提供者の架け橋的なイベント
 - 研究データへの DOI 登録促進の進捗状況および課題点の検討
 - 研究データの公開に対して所属機関の理解を取り付けたり、データポリシーを整備していくにはどうすればいいか
 - もっと普及させる方法

<その他>

その他、今回のシンポジウムやRDUFの活動について、以下のような意見・コメントがあった。

- 総会で、RDUFの目指す方向性などについて議論する時間がもう少しあると良いかもしれないと思いました。(会員を増やして行きたいのであれば、もう少し求心力を持たせる必要があり、シンポはターゲット層に向けて企画、周知、宣伝するなど何らかの戦略があっても良いかもしれません。そこまでやるかどうか。)

- まだまだDOIを知っている国民は少ないと私は思います。国民の必須な教養として教科書に記載するとか、教育実施基準などに盛り込むきちんと教育するよう働きかけるべきです。
- 期間限定でも良いので、参加登録した人にはオンデマンドで配信すると、当日都合が悪い人でも閲覧ができると思う。

以上